

【資料 1】

スマートシティYAIZUの 取り組みについて

2024年12月23日

焼津市



INDEX

1. スマートシティとは



2. 焼津市におけるスマートシティ施策の位置付け



3. スマートシティYAIZU実現に向けたチャレンジ



1. スマートシティとは



デジタル技術を上手く使いながら

様々な立場の人たちが協力して

みんなが便利で快適に暮らしていけるように

まちづくりを進めている都市や地域

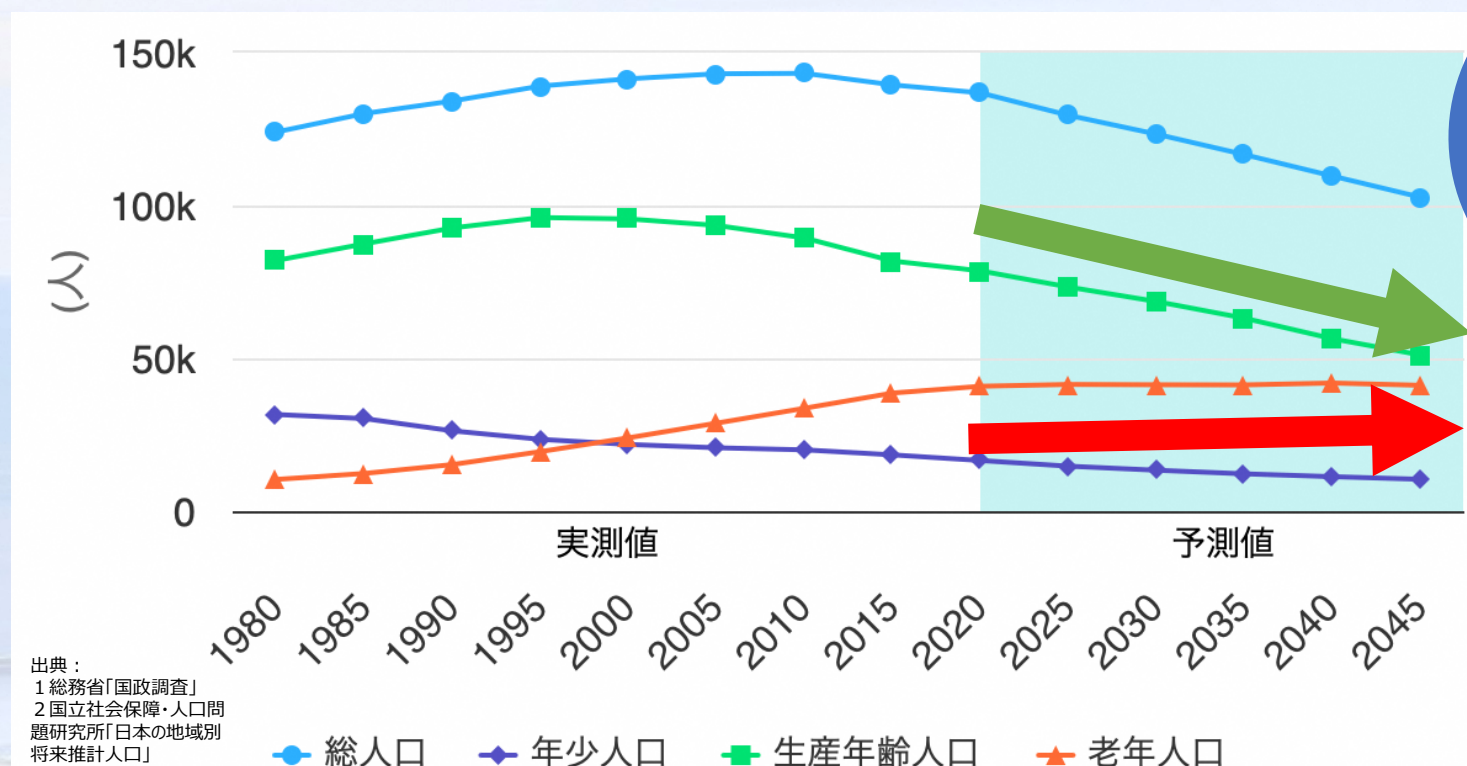
【参考】内閣府科学技術・イノベーション推進事務局によるスマートシティの定義：スマートシティは、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理、運営等）の高度化により、都市や地域の抱える諸問題の解決を行い、また、新たな価値を創出し続ける持続可能な都市や地域であり、Society5.0の先行的な実現の場です。

スマートシティYAIZUでは、地域課題の解決や、新たな価値・サービスの創出に向けて
I C Tなどの新しい技術やデータを活用し、
市民の皆様の生活をより便利で快適にする取り組みを推進して、
Well-beingの向上を目指します。

ウェルビーイング = Well（良い）+ Being（状態）
「身体的・精神的・社会的に良い状態」にあること（WHO）

◆ 全国の地方都市は、今後、人口減少と高齢化が進行

【焼津市の人口推移】



生産年齢の人口は減るが
老年人口は減らない

地域経済の停滞や公共サービスの維持等が課題に！

▶ デジタル活用で生産性、効率性を上げていく必要がある

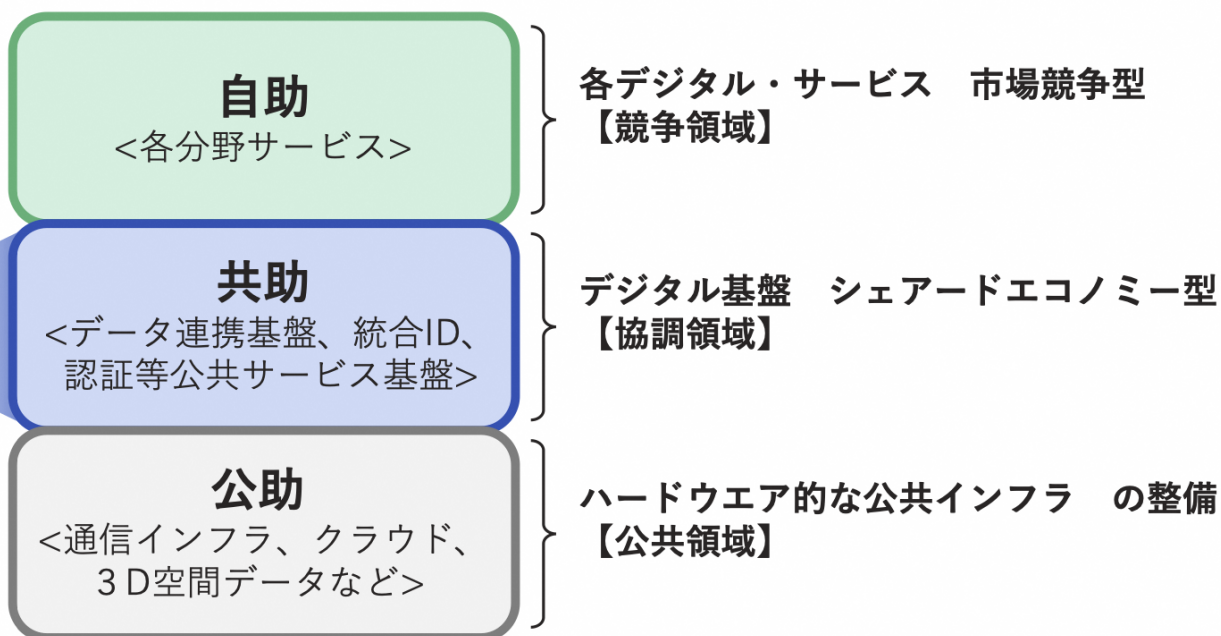
◆ スマートシティの実現に必要な「共助のビジネスモデル」

出典：第一回デジタル田園都市国家構想実現会議／デジタルから考える デジタル田園都市国家構想／2021年11月11日) デジタル大臣 牧島かれん

Before Digital(昭和のモデル)

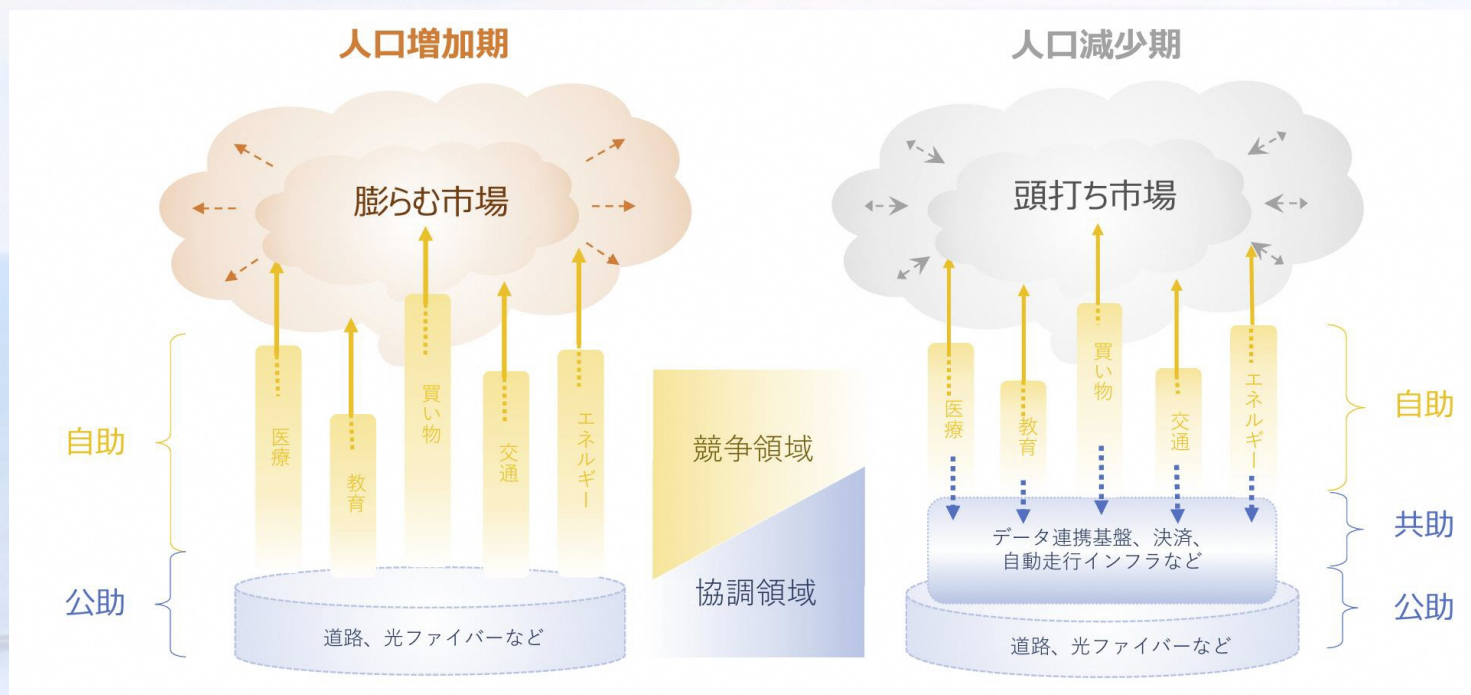


After Digital(令和のモデル)



◆ 人口減少期は個別投資では回収が難しい局面が増えてくる

出典：第10回デジタル田園都市国家構想実現会議資料／2022年11月30日 デジタル庁



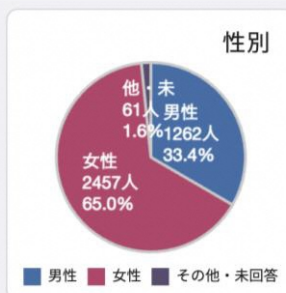
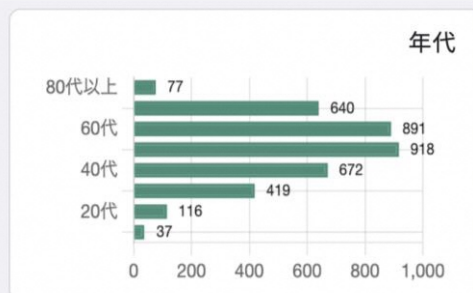
共助（協調領域）の拡大のために必要なことは？

▶ **まずは、さまざまな立場の人たちが「協議する場」が必要**

◆ 地域幸福度（well-being）指標の活用

地域幸福度指標：市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を数値化・可視化する指標。

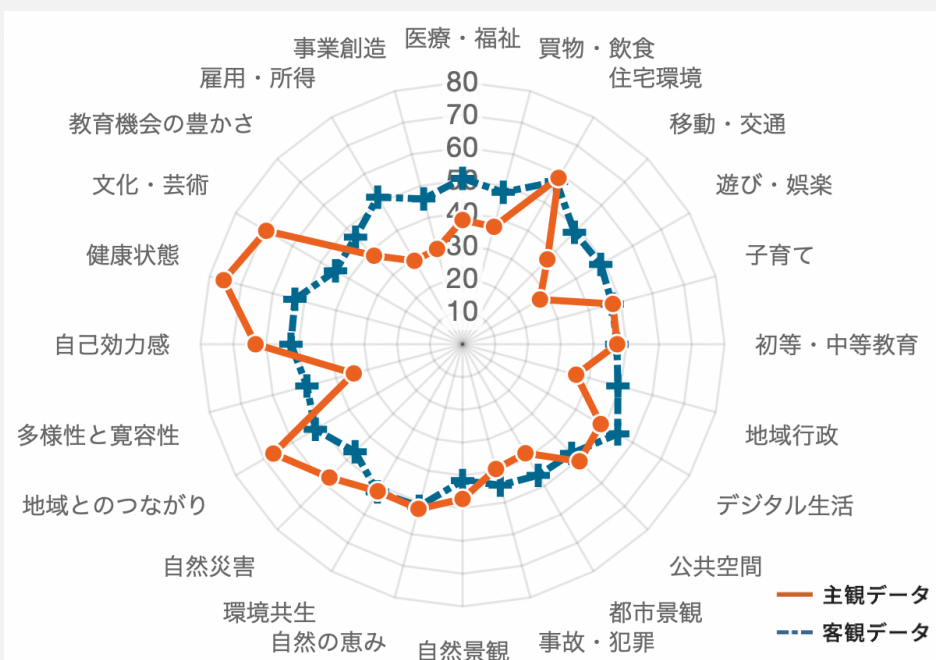
焼津市の地域幸福度調査結果 (2023)



【調査期間】
2023年11月29日～12月31日

回答者数

3,780



デジタル化は進むけれど、中心はあくまで「人間」
▶ 様々な取り組みの目標を「市民の幸福」に！

2. 焼津市におけるスマートシティ施策の位置付け



◆ 焼津市は**焼津市DX推進計画**を2021年に策定し、第6次焼津市総合計画の6つの政策体系と連動したデジタル変革を推進している。

◆ 計画期間は2022年度～2025年度の4年間。



市の最上位計画「総合計画」

焼津市DX推進計画ビジョン 「デジタルによる、豊かで快適な新しい暮らしの実現」

【3つの基本的な方向性】

1 より質の高い市民サービスの提供

2 自治体運営の効率化

3 地域の活性化

健康・医療・福祉

子育て・教育

文化・スポーツ
生きがい

産業・観光

防災・都市・環境

DX・市民協働
行政運営

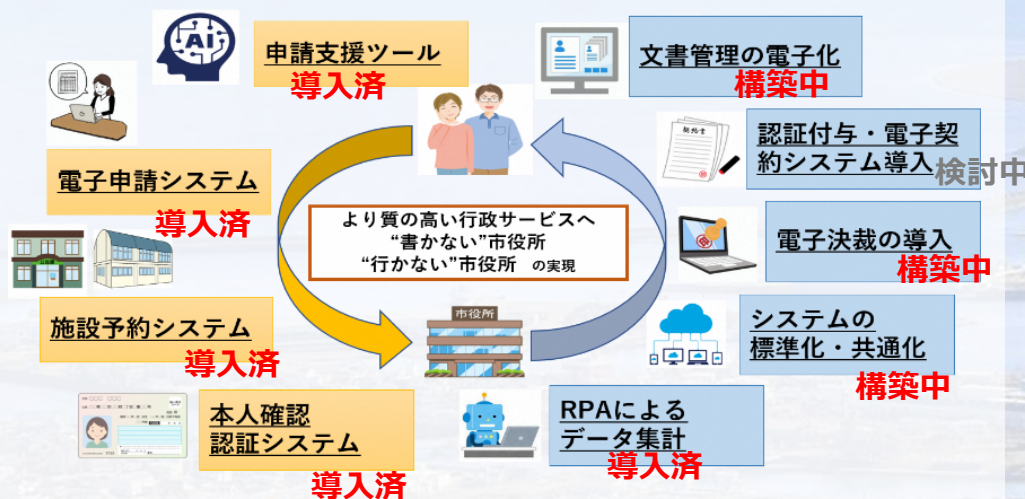
第6次焼津市総合計画の政策体系

【5つの取り組みの視点】

- ①チャレンジ
- ②サービスデザイン
- ③データ活用
- ④セキュリティ
- ⑤SDGs

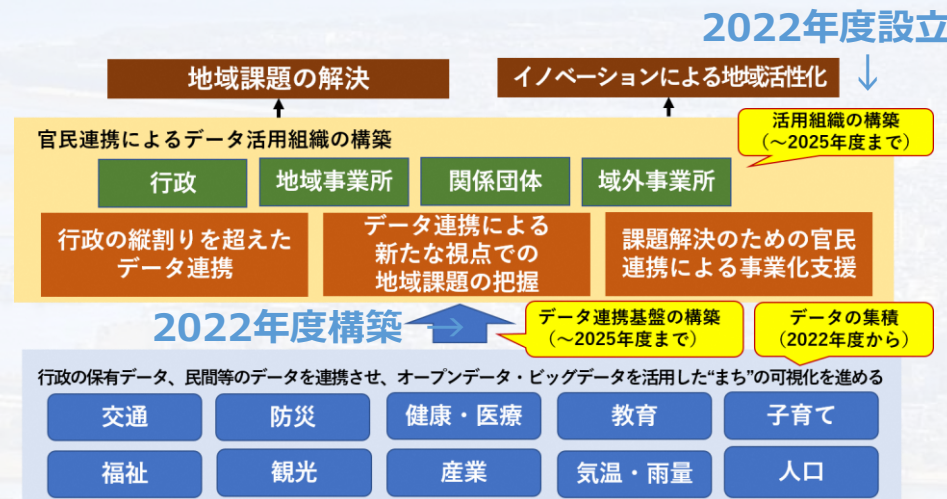
リーディングプロジェクト1

市役所への申請手続きから、許認可までの事務処理の完全デジタル化を進める。



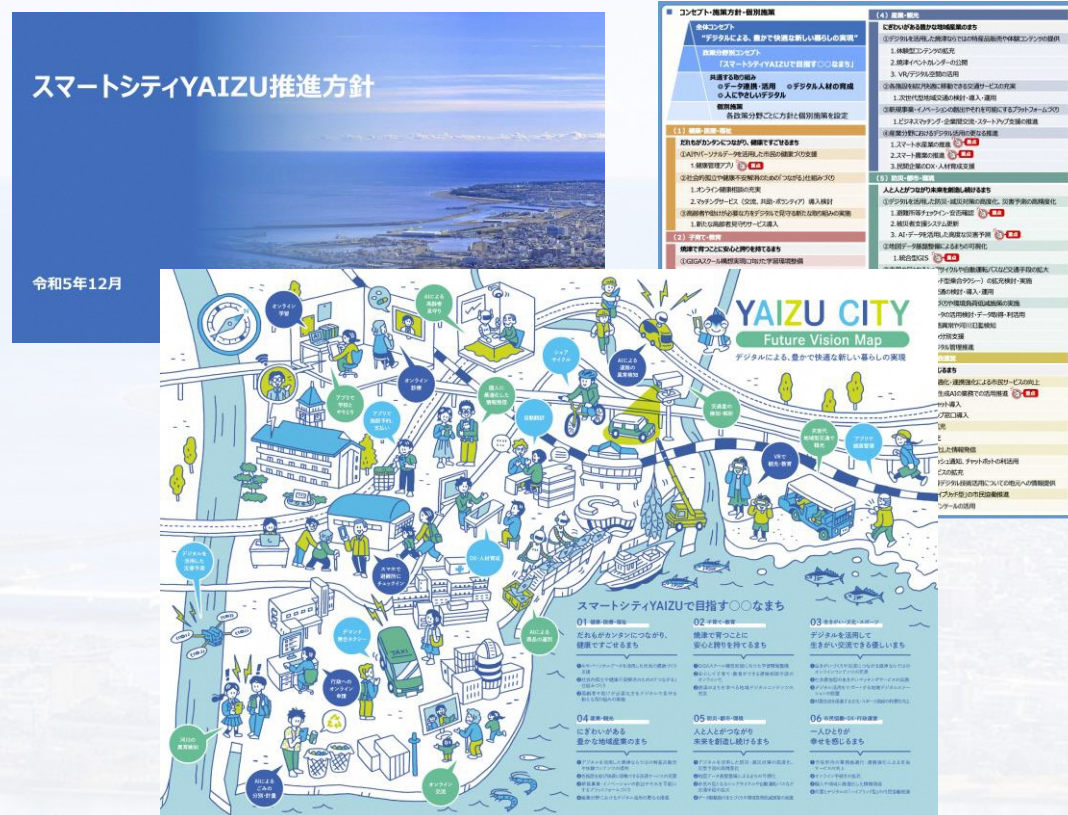
リーディングプロジェクト2

行政・民間等の持つ様々なデータを集積・活用し、
スマートシティを推進する。



◆ 2023年12月にスマートシティYAIZU推進方針を策定

◆ 市民WS、職員WSなどを行い、優先的に取り組むべき内容を整理



2. スマートシティYAIZU実現に向けたチャレンジ



2022年度

国の交付金を活用し、**データを活用したサービスの創出**や**データ連携基盤の構築**などに取り組んだ。

サービス1 焼津データ分析サイト

焼津に関するデータを、グラフや地図を使って可視化するWEBサイト。

【産業・観光】

- ・ 公開可能な統計情報を可視化
- ・ 市のふるさと納税データを可視化（限定公開）

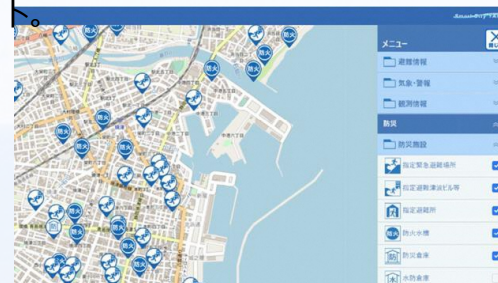
【防災】

- ・ 蓄積した災害情報を可視化（限定公開）



サービス2 焼津データマップ

焼津のデータを一つの地図で重ねて見ることができるWEBサイト。



【産業・観光】

- ・ 観光、イベント情報、公共施設 ほか

【防災】

- ・ 災害情報リアルタイム表示・洪水、土砂災害、津波の各ハザードマップ

サービス3 避難情報プッシュ配信（迅速化）

市役所のシステムで発令した避難情報を、焼津防災メールや市LINE公式アカウントに自動配信。



サービス4 焼津APIカタログ

データを利用する事業者向けWEBサイト。データの流通を促進するため、機械判読可能な形式でデータを公開。

データ連携基盤

さまざまなデータを蓄積・流通させる仕組み。

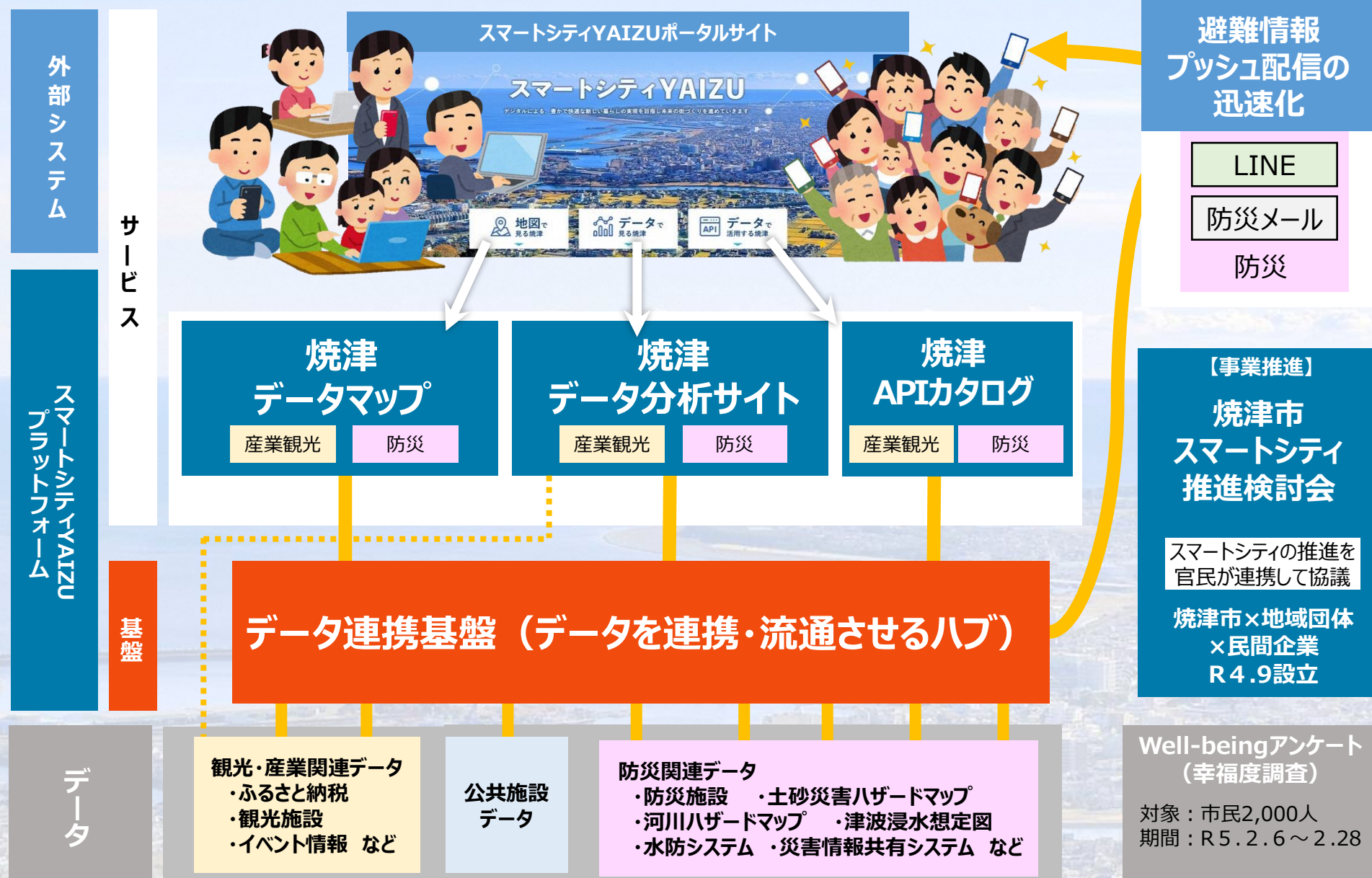
スマートシティYAIZUポータルサイト

「スマートシティYAIZU」のサービスの入り口となるWEBサイト。



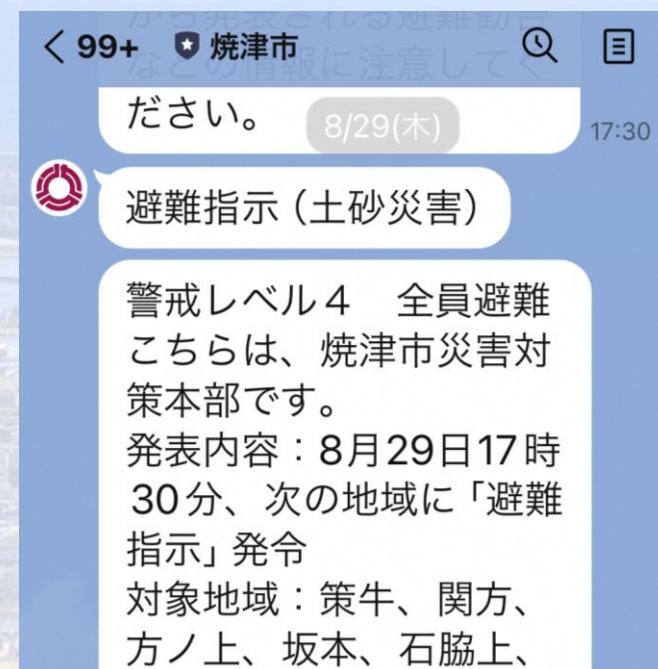
スマートシティYAIZU実現に向けたチャレンジ

17



<参考>

2024年8月末の台風10号の際、雨量、河川水位、通行止め、避難所、避難情報などを、迅速に情報発信した。



2023年度

◆ 国のスマートシティ施策（デジ田交付金タイプ2/3）の方向性

① 作り込みよりも使い込み

2023年12月21日：デジ田タイプ2/3説明会 デジ庁コメント

作ることよりも作ったシステムをどう使うか。

大事なのは利用をどう広げるか。

システムはまったく同じでも、使い方を考えたとか、普及方法を考えたとか、特に今年はそこを見たい。

作ったものの普及対策をしっかりと考えずに新しいシステム

ばかり作る提案をいただいても、要件外とは申し上げ

ませんが、高くは評価いたしません。

② 基盤は共同利用へ

2023年12月21日：デジ田タイプ2/3説明会 資料

データ連携基盤の共同利用

調整中のイメージ
年明け以降に改めてご説明等実施



● データ連携基盤に関する今後の方針について

- (1) 分野別にデータ連携基盤は、原則、各都道府県で1つに限る（※1）
- (2) 分野間のデータ連携基盤は、各都道府県で1つに限る
- (3) これらは原則、カタログ（※2）が推奨するデータ連携基盤技術から採用する

（※1）特定分野におけるデータの扱い等の特性上、別建てにすることが有益な場合に限り、特定分野に特化したデータ連携基盤は原則、各都道府県で1つに絞る（例：主に医療に分野に特化など）

（※2）「デジタル実装の優良事例を支えるサービス／システムのカタログ」について、令和6年1月目途にデータ連携基盤に関して更新予定

▶ **新たなシステムを自治体ごとに作るのではなく
既にあるサービスを、どう利用し広げていくかがポイントに**

◆ 焼津データマップリニューアル検討（サービスの使い込みを検討）

課題

地図情報が共有できない。毎回メニューから探すのは大変。地図を重ねると表示が遅い。新しい地図が増えない。

市民



URL共有
情報検索
高速表示

リニューアルの方向性

市民



市民



- ・ 地図を市民間で共有できる。
- ・ キーワード検索が可能になる。
- ・ 重ねた地図を高速表示できる。
- ・ 市との対話で新しい地図が公開される。

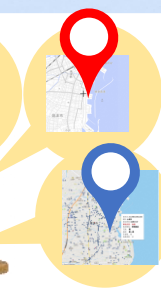
新しい地図追加はコストも時間もかかる。市民にプッシュ配信できない。タイムリーに見てくれているか確認できない。

市役所



地図管理
地図追加
URL共有
LINEプッシュ等
閲覧履歴

市役所



市民



- ・ 紙管理や個別システム内の地図を随時公開できる。
- ・ 個別の地図情報を市公式LINEでプッシュ配信できる。
- ・ 公開した地図の閲覧履歴が確認できる。

APIカタログから地図サービスを作るのは工数がかかる。民間地図は表示回数など制限があり、コストなどが気になる。

事業者



地図API
データカタログ

WEB事業者、シビックテックなど一定のリテラシーがある人



- ・ 機械判読可能な地図情報が公開される。
- ・ 地図情報の埋込が容易。運用コストや使用制限なし。
- ・ 描画の変更、他データとの紐付けができ、アプリ開発に活用できる。

◆ スマートシティYAIZUデータ利活用促進事業

- ・ 地域事業者によるデータ利活用を促進するための事業。
- ・ 5回のセミナーと訪問支援をセットで実施し、参加事業者を伴走型で支援。
- ・ 2024年度も継続実施中

▼ 2024年度事業の募集チラシ

スマートシティYAIZUデータ利活用促進事業

データドリブン経営のための 専門家による伴走支援 ～ 参加事業者募集 ～

本事業はデータ利活用による地域産業活性化を目的とした事業です。スマートシティYAIZUの「焼津データ分析サイト」等を活用し、データドリブン経営を行うための伴走支援を実施します。

データドリブン経営とは？
これまでの経験や勘に頼る判断ではなく、データ分析した結果をもとに企業経営を行う経営手法です。ビジネスに関するさまざまなデータを収集・蓄積・分析することでデータドリブン（データに基づいて何かを行う）を経営にも活用することができます。

無料
この機会に始めてみませんか？

講師
ナカタテック 株式会社
取締役 顧文博氏
ナカタテック 株式会社
高橋克秀氏

サポート内容
「データドリブン経営セミナー」と「個別支援」を効果的に組み合わせ、次のステップでサポートを行います。

- 1 課題整理（ヒアリング）**
事業者にあったアプローチで、課題を洗い出します。
- 2 データ収集**
課題解決に向け、どのようなデータが必要か検討します。データの収集方法についても、丁寧にアドバイスします。
- 3 データの「見える化」**
専門的な知識がなくても扱える「分析ツール」を利用した、データの見える化をサポートします。
- 4 解決案の策定（仮説立案）**
可視化したデータの分析方法や分析結果を利用した課題解決案の策定を支援します。

募集概要

- 対象 焼津市内に営業所・事業所等の拠点がある事業者
- 公募枠数 参加事業者 5社
- 参加条件
 - ・ 事業説明会、データドリブン経営セミナーに参加できること
 - ・ データドリブン経営にチャレンジする意欲があること
 - ・ 伴走支援の際、ヒアリング、アンケート、取材等に協力できること
 - ・ 事業報告書やWebサイト等への事例掲載に協力できること
- スケジュール
 - 事業決定 8月26日（月）
 - 事業説明会 8月30日（金） 13:30～（会場：焼津PORTERS）
 - 伴走支援期間 9月～1月
 - セミナー日程 2024年 9/13（金） 10/4（金） 11/8（金） 12/6（金）
 - 2025年 1/10（金）
 - 時間はいずれも13:30～15:30（会場：焼津市役所）
 - 成果報告会 2025年2月28日（金）
- 備考
 - ・ 参加事業者が保有しているデータを利用してデータ分析を行います。
 - ・ 参加事業者が保有しているデータを、プライバシー等に配慮した上でスマートシティYAIZU「焼津データ分析サイト」等で利活用することを想定しています。
- 参加費 無料
- 申込方法 8月19日（月）締め切り
右QRまたは下URLの申込みフォームよりお申し込みください。
<https://forms.office.com/r/tcPMM7E9T>

**売上UP
業務改善
商品ラインナップの最適化
効果的な商品PR など**

お問い合わせ **委託企業 株式会社サンロフト** 地域興財事業部 担当：小林
TEL：054-626-3366 FAX：054-626-3371（管理：焼津市行政経営部DX推進課）



2024年度

スマートシティYAIU「みんなで使う地図情報サービス」

地域のデータをみんなで使う！共助による持続可能な地域づくりを推進！

自治会区域がデジタル地図に載っている！役員で共有して活動に利用しよう。

大雨が続いてる。念のため家族に雨量と水位と避難所の地図をLINEしよう。

公開されている地図情報を使って避難所までの安全誘導アプリを作ってみた。

アンダーパスが冠水しそう！投稿してみんなに知らせよう！

地域
課題

わかりやすい情報発信

地域
課題

市民の防災意識向上

スマートマップ焼津

2022に構築した「焼津データマップ」を大幅に改良



行政



市民



事業者

参加型災害情報共有サービス

市民等が災害情報を投稿し共有する仕組みを構築



マッピング



データレイク

スマートシティYAIZU PF



analysis



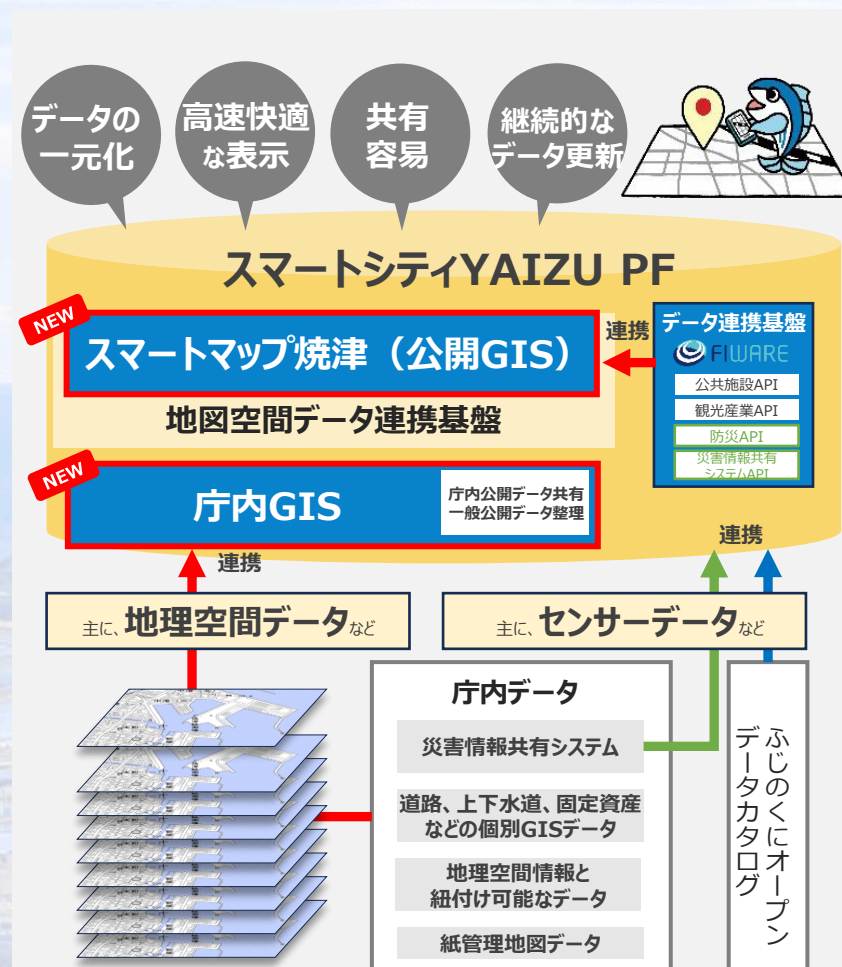
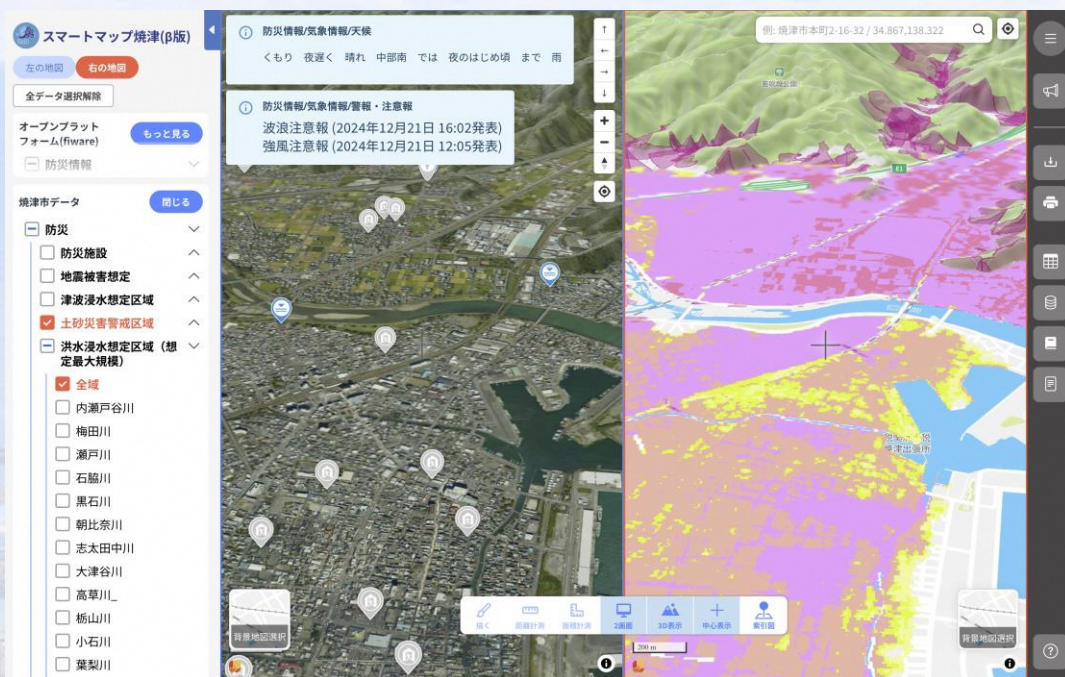
AI

地理空間情報のオープン化（行政が持つデジタル資産を地域へ還元）！

◆ スマートマップ焼津

様々な地図情報を公開し、共有、再利用できるサービス。庁内GISで管理・蓄積したデータを公開GISで一元的に公開し、市民や事業者の利便性向上を図る。

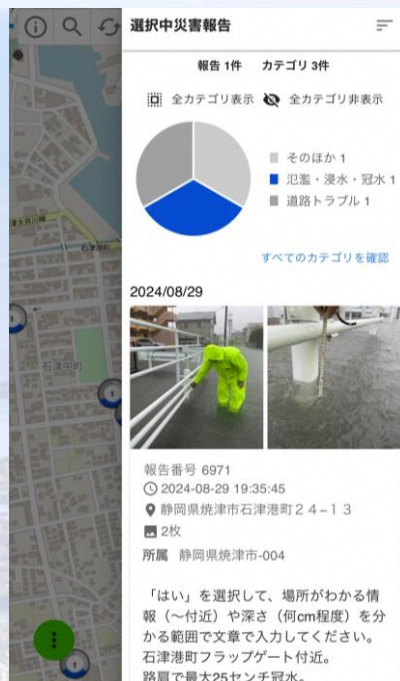
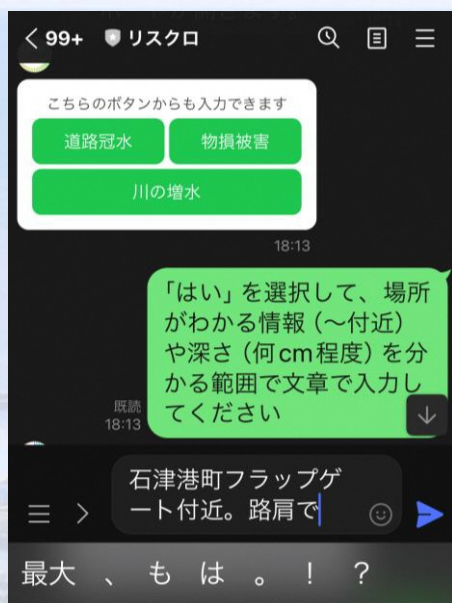
▼構築中の公開GIS「スマートマップ焼津」



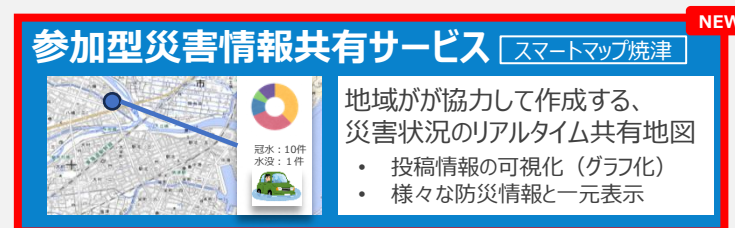
◆ 参加型災害情報共有サービス

- 災害情報を投稿、可視化する民間サービスを利用し、データ連携により、スマートマップ焼津上でその他の防災関連情報と合わせて表示するサービス。
- 今後は、市職員以外にも投稿協力者を拡大し、地域一体となった災害情報の共有に取り組むと共に、市民の防災意識の向上にも繋げる。

LINE画面からコメントと画像を投稿し、専用ビューアで可視化する
民間サービスのデータを活用

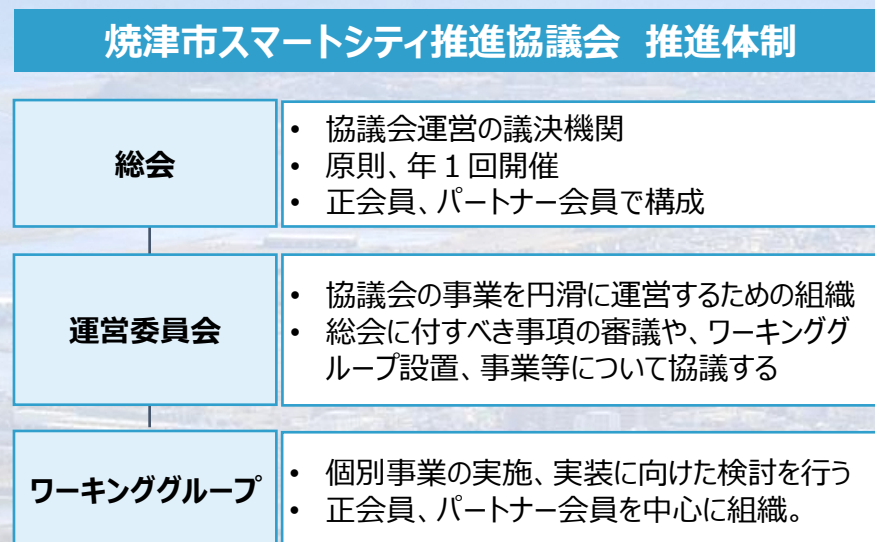
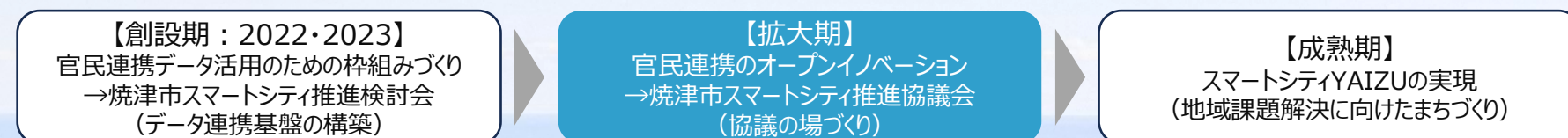


「共助」の意識で災害情報を発信



◆ 焼津市スマートシティ推進協議会

- デジタルを活用し、分野横断的な視点で地域課題解決に取り組み、焼津市ならではの魅力や市民生活の豊かさ、利便性の向上を目指し、持続可能な都市の実現するために「焼津市スマートシティ推進協議会」を設立。
- スマートシティ拡大期として、地域課題解決のための協議の場づくりに挑戦。ワーキンググループを設置し、関係者が協力して取り組みを進める。



焼津市DX推進課